

憲法ってなんだろう？ 9条はなぜ作られたの？ 芸術や言論表現活動に、私たちの暮らしに、それはどう関わるの？  
～藝大生と市民がともに学び考えるための「連続講座」です～

# 芸術と憲法を考える連続講座

2019年～2020年 藝大生も一般市民も、どなたでもご参加いただけます。

入場無料

申し込み不要

第21回

2019年 10/30 (水)

特別  
シンポジウム 「表現の不自由展・その後」  
中止事件を考える

今年の夏、あいちトリエンナーレで起きた事件について、関係者や専門家を交え、ともに考えます。  
パネリスト：大浦信行(出品作家)、嶋田美子(出品作家)、岡本有佳(不自由展実行委員、編集者)、川島  
素晴(作曲家)、山田健太(日本ペンクラブ専務理事)、権祥海(東京藝大大学院国際芸術創造研究科博士  
課程在学中)、武居利史(府中市美術館学芸員)。この回のみ、主催が藝大有志の会となります。



第22回

11/7 (木) 18:30

## 研究の現場から

芸大教員とともに「芸術」と「社会」の関係を考える

◇福中 冬子「バーンスタインと赤狩り」

◇毛利 嘉孝「資本主義の『終焉』と新たなコミュニズム／  
社会主義の時代？—新しい文化芸術の実践とコービン、  
サンダース、あるいは『れいわ新選組』の時代??」

表現の自由と芸術の自律が担保されている(はず)の戦後西側諸国において、芸術と社会はどのような関係にあるのでしょうか？  
本講座では毛利嘉孝(国際芸術創造研究科)と福中冬子(音楽研究科音楽学)の二人が、それぞれの専門領域(社会学・文化批評、  
近現代音楽史研究)における事例を通じて、西側社会における芸術のアクチュアリティを考えます。

毛利 嘉孝  
(もうり・よしとか)

社会学者。音楽や美術などの現代文化やメディア・  
社会運動を中心として、研究・批評・実践活動を行  
う。主著に『ストリートの思想』(NHK出版)、主編著  
に『アフターミュージック』(東京大学出版会)。



メガン・ウィルソン作 壁画 ▶  
《CAPITALISM IS OVER! IF  
YOU WANT IT》  
クラリオン通り、サンフランシス  
コ(2011年)



福中 冬子  
(ふくなか・ふゆこ)

近現代音楽創作を中心に研究。ニューヨーク大学  
大学院修了。『ニューミュージコロジ—音楽作品を  
「読む」批評理論』(編訳)、『Vocal Music and  
Contemporary Identities』(共著)など。



バーンスタイン指揮、プレヒト ▶  
作『三文オペラ』(ワイル作曲、  
ブリツスタイン翻案)の稽古  
風景。歌っているのはロッテ・  
レーニャ(1952年)

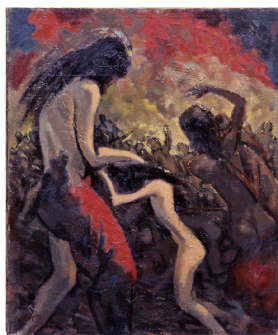


第23回

11/27 (水) 18:30

## やさしい視線・静かな怒り

詩人・四國五郎が伝えたかったこと



▲四國五郎 作(8月6日)

「戦争の記憶」を伝えることを自らの使  
命と課し、「平和のために」絵と詩を描く人  
生を生涯貫いた詩人・四國五郎。戦争と  
シベリア抑留、そして最愛の弟の被爆死を  
体験し、平和のための芸術活動に人生を捧  
げた四國五郎の「表現」と「生き様」を通  
して、今、私たちは戦争の記憶をどのよう  
に継承し、未来に伝えていくべきなのか。息  
子の視点から考えてみたいと思います。

四國 光 (しこく・ひかる)

1956年広島市生まれ。四國五郎長男。早  
稲田大学第一文学部  
卒。電通にてマーケティング局長、電通コンサルティ  
ング取締役等を歴任。水中撮影プロ デュース、スポーツ  
事業にも携わる。職業潜水土。NPO法人吹田フット  
ボールネットワーク設立代表。定年退職した現在は、  
地域スポーツ振興や、父が残した作品を活用し次世代  
への継承活動に従事。



第24回

12/11 (水) 18:30

## 私たちは歌で戦争を支えた

—民衆の自己表現、戦時歌謡—



1927年の「山東出兵」に始まる日本の「18年戦  
争」は、文学・芸術・思想など文化諸領域の自由を徹  
底的に奪いました。しかし、その戦時下はまた、「国  
民」が澁淵として声を上げ、自らを表現した時代で  
もあったのです。その時代が生んだ歌謡曲(流行  
歌)をご一緒に聴きながら、そこに顔をのぞかせる  
私たち自身の姿を通して、戦争と反戦・自由を考え  
直してみましょう。

池田 浩士 (いけだ・ひろし)

1940年生まれ。京都大学、京都精  
華大学に在職の後、現在は自由業。  
主な著書=『大衆小説の世界と反世  
界』、『ファシズムと文学』、『闇の文  
化史—モンタージュ 1920年代』、  
『抵抗者たち—反ナチス運動の記  
録』、『海外進出』文学・論 既刊3  
冊、『虚構のナチズム』、『ヴァイマル  
憲法とヒトラー』、『ドイツ革命』、  
『ボランティアとファシズム』。



▲『新編国語讀本 尋常小學校兒童用 卷二』  
(1901年、帝國書籍)

主催/東京藝術大学 音楽学部 楽理科 共催/自由と平和のための東京藝術大学有志の会 後援/日本ペンクラブ

会場/東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部5号館1階 109教室 (毎回開始時刻の30分前に開場)

※満席の場合は補助席を若干数でご用意いたしますが、やむなくご入場いただけなくなる場合もございます。どうぞご容赦ください。

写真: 東京藝術大学音楽学部キャンパスにある赤レンガ1号館。都内に現存する最古のレンガ建築(明治初期)。



国会の衆参両院で改憲勢力が3分の2以上を占め、本来であれば憲法に縛られるべき存在の政権が、改憲に向かい前のめりに進み始めている今、国民投票が発議される可能性が、いよいよ現実味を帯びています。

そこで藝大有志の会ではこのたび《芸術と憲法を考える連続講座》をスタートし、地道な学習会を重ねていく運びとなりました。ちょっと大変かも知れませんが、本気モードの月1回ペースで、多彩なアーティストや言論人、第一線の研究者などにご登壇いただく計画です。

2017年12月1日

第25回

2020年  
1/10(金) 18:30

## 憲法と文化政策



▲青年団「東京ノート」(作・演出 平田オリザ、2010年)

憲法25条に規定される「生存権」は、9条と並んで、制定当時、世界最先端の条項でした。この講座では、生存権の基本権と、国民が文化的に暮らす権利を出発点として、社会における芸術の役割や、「文化による社会包摂」という概念を、地方自治体の実例を交えながら考えていきたいと思います。

平田 オリザ (ひらた・おりざ)

劇作家、演出家。劇団青年団主宰、こまばアゴラ劇場芸術監督。大阪大学COデザインセンター特任教授、東京藝術大学特任教授。2021年兵庫県豊岡市に開学構想中の兵庫県立専門職大学の学長候補者。1995年『東京ノート』で岸田国士戯曲賞受賞。著書に『わかりあえないことから』『新しい広場を作るー市民芸術概論綱要ー』『演劇入門』など。



photo by Tsukasa Aoki

第26回

2/18(火) 18:30

## 詩人・尹東柱(ユン・ドンジュ)

—その時代と生涯と詩

2月16日に獄死した詩人を偲んで



井田 泉 (いだ・いずみ)

1950年、滋賀生まれ。大阪外大朝鮮語学科、同志社大大学院神学研究科、聖公会神学院に学ぶ。立教大文学部助手、聖公会神学院専任教員。日本聖公会の戦争責任問題に取り組む。京都市内の3教会を経て、現在、日本聖公会奈良基督教会牧師、親愛幼稚園園長。編著書は『日韓キリスト教関係史資料Ⅱ』(新教出版社)、『これが道だ、これに歩めーイザヤ書による説教』(かんよう出版)等。

\*お話の前に、短編映像作品を上映します。  
"A Single Poem" by 朴祥炫(パク・サンヒョン)、東京藝大大学院美術研究科先端芸術表現修士課程2年)

日本の敗戦の半年前、1945年2月16日未明、満27歳にして福岡刑務所で獄死した尹東柱。彼を死に追いやったのは治安維持法でした。彼の生涯を、日本による朝鮮植民地支配の時代の中でたどってみます。また珠玉のようないくつかの詩を、原語と日本語で味わってみたいと思います。そこから今の時代に呼びかけてくる切なる響きに触れることができると願います。



▲選稿詩集『空と風と星と詩』初版本(1948年)

第27回

3/27(金) 18:30

## 歌とお話でつづる増補新版・組曲『日本国憲法』

\*当日17:30より会場教室前にて入場整理券配布予定(先着300名)。ホームページ等で最新情報のご確認を!

カウンター『組曲 日本国憲法』(1983年)を、当時、藝大入学前の浪人生だった寺嶋陸也は、俳優座の客席で聴いている。あれから憲法をめぐる状況は一変した。

今回、寺嶋と秋の協力で増補新版・組曲『日本国憲法』が私たちの講座に登場する。面白くてためになる伊藤千尋さんのお話を散りばめ、世界の民主主義の歴史のなかに日本国憲法を位置づける、新しい組曲が誕生する。



◀1983年に初演された組曲から、林光が担当した『日本国憲法前文』の自筆譜

作曲と演奏

萩 京子  
(はぎ・きょうこ)



1956年生まれ。東京藝大作曲科卒。現、オペラシアターこんにゃく座代表、音楽監督。オペラ作品に『金色夜叉』『口は口ポットの口』など。吉川和夫、寺嶋陸也と『緋国民楽派』同人。3人での共同作曲オペラ『遠野物語』がある。

作曲と演奏

寺嶋 陸也  
(てらしま・りくや)



1964年生まれ。東京藝大作曲科卒、同大学院修了。オペラや室内楽曲、合唱曲、邦楽器のための曲などさまざまなジャンルに多くの作品があり、ピアニストや指揮者としても活動する。『緋国民楽派』同人。

お話 伊藤 千尋 (いとう・ちひろ)



1949年生まれ。東京大学法学部卒。74年朝日新聞に入社し中南米、欧州、米国特派員に。現在はフリーの国際ジャーナリスト、「九条の会」世話人。近著に『9条を活かす日本』『世界を変えた勇氣』。

演奏 芸術と憲法を考えるアンサンブル 9

<カンパご支援のお願い>

当会の活動とこの連続講座は、皆さまのカンパにより支えられています。ご芳志を以下口座までどうぞよろしくお願ひいたします。

ゆうちょ銀行振替口座 00130-1-514131

口座名称: 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

\*他行から振り込む場合/店番: 〇一九(ゼロイチキョウ)店

預金種目: 当座、口座番号: 0514131

自由と平和のための東京藝術大学有志の会  
HP <https://www.peace-geidai.com>  
✉ [kenpou.geidai@gmail.com](mailto:kenpou.geidai@gmail.com) (川嶋)



JR 上野駅(公園口)、東京メトロ千代田線根津駅(1番出口)より徒歩10分  
京成上野駅(正面口)、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅(7番出口)より徒歩15分

\*このチラシに記載の情報は、2019.9.15現在のもので、最新の情報は会のHPや、FBの《芸術と憲法を考える連続講座》ページでご確認下さい!